

普及項目	漁場環境
漁業種類等	魚類養殖
対象魚類	-
対象海域	八代海

有害赤潮プランクトン検鏡に関する技術指導

天草広域本部水産課・吉村 直晃

【背景・目的】

6月から9月の間、八代海では、県水研センター、天草市水研センター、漁協、漁業者らによる赤潮モニタリングが密に行われ、「赤潮情報」等の情報発信がなされている。

赤潮モニタリングは、顕微鏡による種判別（以下、「検鏡」という。）計数による発生量の把握、情報伝達が連動し、末端の漁業者まで正確な情報が伝わることが重要である。これらのうち、とについては、技術の習得・習熟が必要であり、県水産研究センターによるプランクトン同定研修会が年に数回開催されているが、モニタリング実施機関全てに指導が行き届いているとは言えない。

そこで、県海水養殖漁業協同組合（海水養殖）の赤潮担当者等への個別指導による現場での赤潮モニタリング体制強化を目的とした。

【普及の内容・特徴】

下表のとおり指導を行った。

指導対象	指導日	場所	指導内容
海水養殖 (牛深、栖本)	平成30年7月4日	海水養殖 牛深本所	培養株による検鏡
	平成30年7月6日	海水養殖 牛深本所 久玉浦	現場調査 現場海水サンプル検鏡 観測データ処理
本渡地区の 3養殖業者	平成30年7月11日	福吉魚類株式会社	モニタリング体制の確認
	平成30年8月17日	福吉魚類株式会社	現場海水サンプル検鏡

海水養殖は、担当者の検鏡経験が少ないこと、低倍率の実体顕微鏡（写真1）を使用しておりヘビロクマなど小型種の判別が困難であったことから、培養株による判別方法の指導及び高倍率の正立顕微鏡（写真2）への機器変更を指導した。

また、現場で用いる観測機器の使用や採水後の検鏡用サンプルの取扱いに不慣れであったことから、機器の使用及びサンプルの保存上の注意点、観測データのグラフ化（写真3及び4）を指導した。

一方、本渡地区の3業者は、高倍率の正立顕微鏡を使用し、3名の担当者全員が有害種の判別可能であるなど、モニタリング体制が充実していることを確認した。

また、後日行った現場海水サンプルによる検鏡指導では、顕微鏡の操作が正確に行われていること（写真5）、シャットネラについては正確に判別されていることを確認した。

【成果・活用】

今回の指導では、検鏡技術の習得が不十分な担当者もあり、レベルの差が大きいことを感じた。今後は、他機関も指導の対象に加えて漁協・漁業者の技術レベルを底上げし、天草管内における赤潮モニタリング体制の更なる強化につなげたい。



写真1 低倍率の実体顕微鏡を使用（指導前）
小型種の判別が困難（海水養殖）



写真2 高倍率の正立顕微鏡の使用を指導
演習状況（海水養殖）



写真3 観測データのグラフ化処理を指導
演習状況（海水養殖）

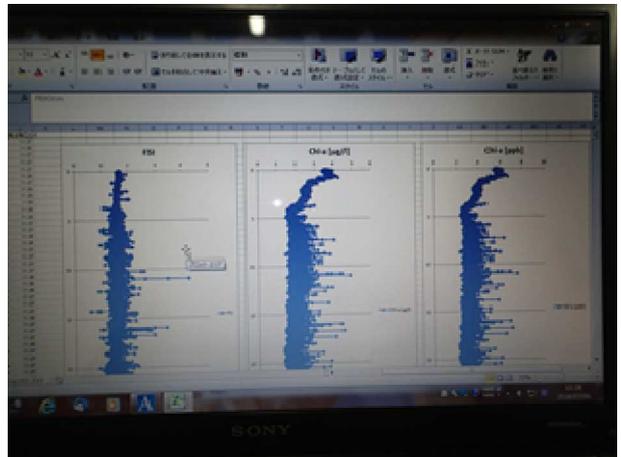


写真4 同左



写真5 本渡地区3養殖業者への検鏡指導
顕微鏡の操作、シャットネラの判別が
正確に行われていることを確認